

PRIMERGY TX1330 M2 ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY TX1330 M2 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2017年4月
富士通株式会社

1. CPU の誤動作によるシステム停止について

BIOS 版数 1.11.0 未満をご使用の場合、CPU の誤動作によりシステムがフリーズ、あるいは再起動する場合があります。

本現象の発生回避のため、BIOS 版数 1.11.0 以降を適用してください。

もしくは、BIOS セットアップユーティリティにて『Advanced』-『CPU Configuration』-『Package C State limit』の設定を『C0』に変更してください。

※ ご購入時の『Package C State limit』の設定は『Auto』です。

ご使用の OS が Linux の場合は、あわせてカーネルパラメータに `intel_idle.max_cstate=0`、`processor.max_cstate=0` を追加してください。

2. オンボード SATA RAID ご使用上の注意事項

- 2.1 オンボード SATA コントローラに HDD を接続してご使用になる場合は、必ず BIOS 版数 1.9.0 以降を適用してください。
- 2.2 ServerView RAID Manger をご利用の際には、必ず 6.3.6 版をご使用ください。
- 2.3 ServerView Installation Manager をご利用の際には、11.16.02 版以降をご使用ください。
- 2.4 NMI スイッチによるダンプの採取はご利用できません。キーボード操作でメモリダンプファイルを作成する設定を行って、キーボードによるダンプ採取をご利用ください。
- 2.5 オンボード SATA RAID を構成し Blu-ray ドライブを搭載した環境において Live File システムを利用する場合には、BD-RE (Blu-ray Disc Rewritable) メディアをご利用ください。BD-R (Blu-ray Disc Recordable) メディアはご利用になれません。

3. セキュリティチップご使用上の留意事項

セキュリティチップ (TPM1.2 モジュール/TPM2.0 モジュール) を使用する場合には、BIOS 版数 1.10.0 以降を適用してください。

4. 内蔵 LTO6 ユニット/内蔵 LTO5 ユニット/内蔵 LTO4 ユニットご使用上の留意事項

内蔵 LTO6 ユニット (PY-LT611 / PYBLT611)/内蔵 LTO5 ユニット (PY-LT511 / PYBLT511)/内蔵 LTO4 ユニット (PY-LT411 / PYBLT411) を使用する場合には、BIOS 版数 1.9.0 以降を適用してください。

5. SATA Flash モジュールご使用上の留意事項

SATA Flash モジュール(PY-DS64YA2 / PYBDS64YA2 / PY-DS13YA2 / PYBDS13YA2)を使用する場合には、BIOS 版数 1.9.0 以降を適用してください。

6. グラフィックスカードご使用上の留意事項

グラフィックスカード(PY-VG301L / PYBVG301L)を使用する場合には、BIOS 版数 1.9.0 以降を適用してください。

7. SAS コントローラカードご使用時の留意事項

SAS コントローラカード(PY-SC3FA / PYBSC3FA)を使用する場合には、BIOS 版数 1.14.0 以降を適用してください。

8. Windows Server 2012 における USB 機器使用について

Windows Server 2012 ご使用時、OS 起動途中に接続された USB 機器(キーボード、マウス、etc)は OS に認識されないためご使用になれません。一度システムを再起動させて USB 機器を認識させる、または USB 機器を接続の上装置を起動させてください。

本事象発生回避のため、ServerView Installation Manager をご利用の際は V11.16.06 以降を使用してください。また PRIMERGY Support Packages (PSP)をご利用の場合は V11.16.06 以降を適用してください。

9. Red Hat Enterprise Linux ご使用時の注意事項

NMI スイッチによるダンプの採取はご利用できません。キーボード操作でメモリダンプファイルを作成する設定を行って、キーボードによるダンプ採取をご利用ください。

また本件については BIOS1.18 以降で修正されていますので最新の公開 BIOS の適用をお願いします。

10. Red Hat Enterprise Linux 6.7 ご使用時のエラーメッセージについて

Red Hat Enterprise Linux 6.7 をご使用時、稀に ACPI Error のエラーメッセージを OS ログに記録する場合があります。ログへの記録のみであり、機能には影響ないため、無視してください。

```
kernel: ACPI Error (dswload-%): [RHUB] Namespace lookup failure, AE_NOT_FOUND
```

```
kernel: ACPI Error (psparse-%): Method parse/execution failed [¥] (Node %), AE_NOT_FOUNDOS
```

11. Windows Server 2008 R2 のインストールについて

Windows Server 2008 R2 のインストールは、ServerView Installation Manager を使用して行ってください。OS 手動インストールは出来ません。

ServerView Installation Manager V11.16.04 および V11.16.06 をご使用の場合は、OS の選択画面において Windows Server 2008 R2 がサポート対象外として表示されます。正しくはサポート対象ですので、イ

インストールしてご使用になれます。ただし、エクスプレスインストールを使用してください。標準インストールを使用されますと、USB 機器が OS に認識されずインストールを継続できません。

Windows Server 2008 R2 セットアップディスクからのシステム起動はできません。そのため、Windows Server Backup で採取したイメージからシステムの回復を行うことはできません。Windows Server 2008 R2 セットアップディスクからのシステム起動しての他の作業もできません。

12. Intel TXT 機能について

本装置では、ハードウェア上でハイパーバイザーを直接稼働させる仮想環境 (Windows Hyper-V、VMware ESXi など) において、Intel® TXT 機能 (インテル® トラストド・エグゼキューション・テクノロジー) をご使用になれません。

13. ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008 R2 をご使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報 (IP アドレス / Teaming 設定など) が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB (Knowledge Base) を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008 R2: KB2344941 , KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2 (SP1): KB2550978 , KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2016 年 1 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/?ln=en-us>

・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。

OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

(1) デバイスマネージャーを起動します。管理者としてコマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
```

```
start devmgmt.msc
```

(2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

(3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

14. SR-IOV 機能について

本装置では、Single Root I/O Virtualization (PCI デバイス側で仮想化をサポートする規格) が使用できません。

15. UEFI モードについて

UEFI モードの設定方法や OS 及びオプションのサポート状況に関しては、下記リンクをご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

16. iRMC S4 ご使用上の留意・注意事項について

iRMC S4 に関するご使用上の留意・注意事項については、「iRMC S4(Integrated Remote Management Controller)ご使用上の留意・注意事項」をご確認ください。本留意・注意事項は下記リンクから、ご使用の機種を選択し、各サーバ本体の個別のマニュアルより参照いただけます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>

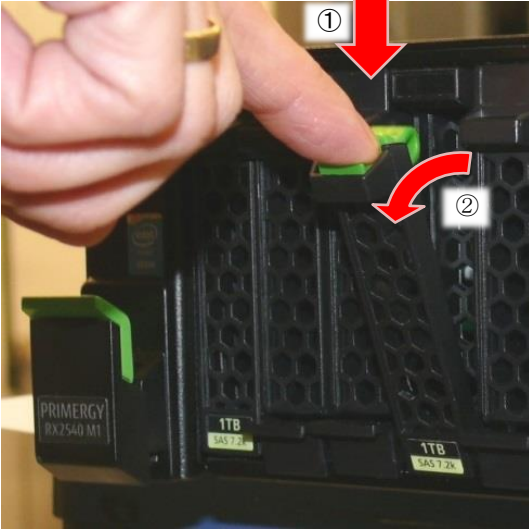
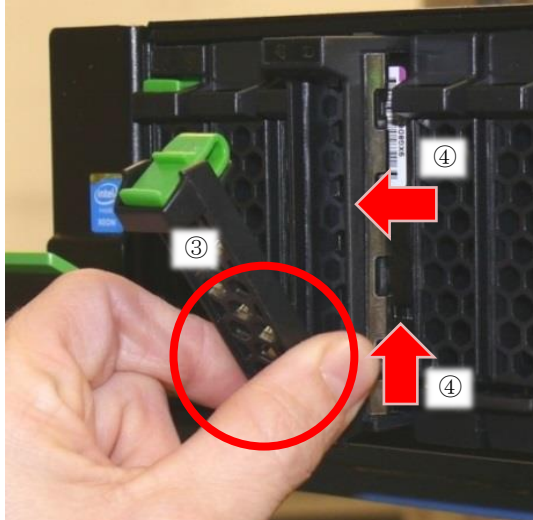
17. 2.5 インチ HDD/SSD 取り外し時の留意について

2.5 インチ HDD / SSD を取り外す際に、下図の A の部分のフックがかかっているため抜けづらいことがあります。その際、HDD/SSD トレイへ無理に力を加えると、トレイが破損してしまうことがあります。




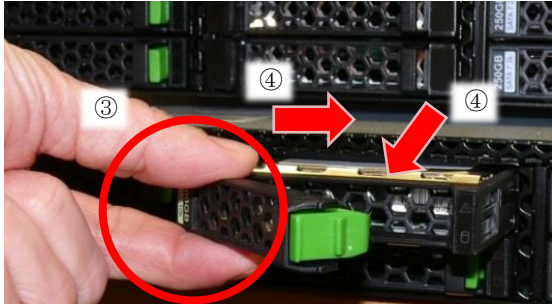
取り外しにくい場合は、上右図 B の方向に無理に力を加えるのではなく、下記の手順を参考に取り外してください。

[HDD/SSDトレイが縦向きに搭載されている場合]

	
<p>①タッチポイントを押して、ロックを解除します。 ②手前にリリースレバーを約 45° 手前に倒します。</p>	<p>③リリースレバーの根元をつまみます。 ④トレイを軽く持ち上げて、サーバから引き抜きます。</p>

※ トレイを持ち上げても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。(HDD/SSD を元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSD を引き抜いてください。)

[HDD/SSDトレイが横向きに搭載されている場合]

	
<p>①タッチポイントを押して、ロックを解除します。 ②手前にリリースレバーを約 45° 手前に倒します。</p>	<p>③リリースレバーの根元をつまみます。 ④トレイを軽く右方向へスライドしてから、サーバから引き抜きます。</p>

※ トレイをスライドしても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。(HDD/SSD を元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSD を引き抜いてください。)

18. オペレーティングマニュアルの記載について

「FUJITSU Server PRIMERGY TX1330 M2 オペレーティングマニュアル」の記載について、カタログ／システム構成図等と用語を統一するため、以下の通り下線太字の箇所を読み替えてください。

マニュアル本文は下記リンクよりご参照いただけます。

<http://manuals.ts.fujitsu.com/file/12530/tx1330m2-om-jp.pdf>

・現在の記載(81 ページ)

「設置場所から移動できないようにするため、スチール製ケーブルを背面のクリップに通して、タワーモデルを動かすことができないように固定できます。」

・読み替え後の記載(81 ページ)

「設置場所から移動できないようにするため、セキュリティワイヤーを盗難防止用ロック取り付け穴に通して、タワーモデルを動かすことができないように固定できます。」

19. BIOS メニュー画面での長時間(8 時間以上)放置の制限

BIOS メニューの画面で 24 時間以上放置しないでください。BIOS メニューで 8 時間以上放置した場合には、その状態から Esc キーで BIOS メニューを終了せずに、以下の手順を実施してください。

BIOS メニューの「Save & Exit」タブ から「Save Changes and Exit」 または「Save Changes and Reset」を「Yes」で選択し、一度 BIOS 設定情報を保存してから OS 起動させてください。

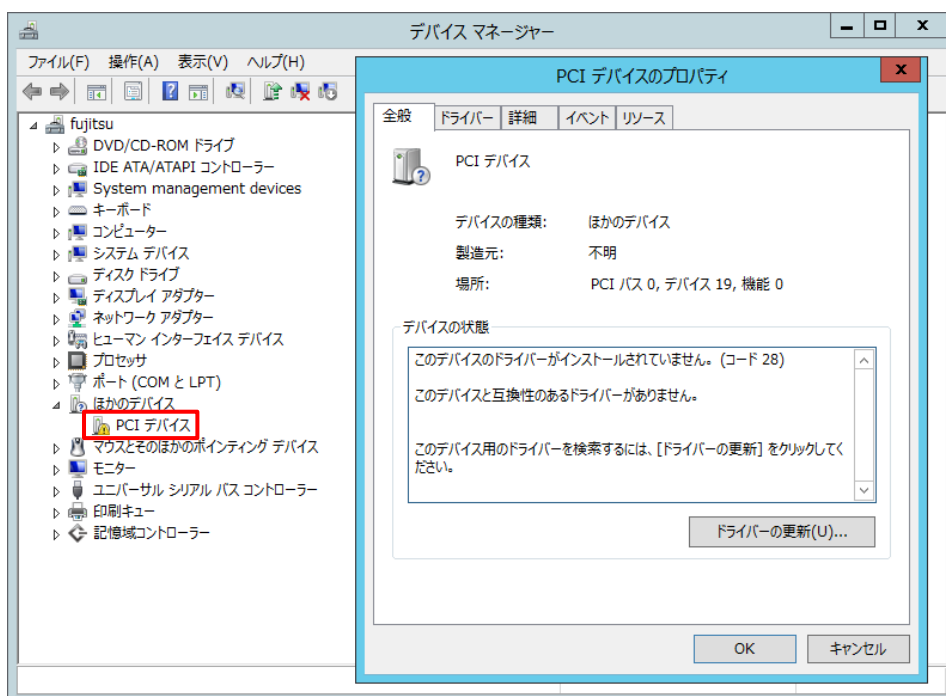
上記手順を実施しない場合、装置が起動できなくなります。装置が起動できなくなった場合はシステムボードの交換が必要になります。

また本件については BIOS1.18 以降で修正されていますので最新の公開 BIOS の適用をお願いします。

20. Windows Server 2008 R2 / 2012 / 2012 R2 / 2016 のインストールについて

ServerView Installation Manager V12.16.10 以降を使用し、Windows Server 2008 R2 / 2012 / 2012 R2 / 2016 をインストールすると、デバイスマネージャーに不明なデバイスが表示されます。また手動で Windows Server 2008 R2 / 2012 / 2012 R2 / 2016 をインストールし、2016 年 10 月公開のチップセットドライバ for Windows Server Ver.10.1.2.77 を適用すると、デバイスマネージャーに不明なデバイスが表示されます。

この不明なデバイスが表示されていても機能的に問題はありません。そのままお使いいただけます。



なお、上記の不明なデバイスは以下の方法で非表示にすることができます。

不明なデバイスの非表示手順

- (1) BIOS 版数 1.14.0 以降を適用します。
- (2) BIOS メニューを起動し、BIOS の設定情報を控えます。
※手順(3)を実施すると一度 BIOS の設定が初期化されます。
事前に必ず BIOS の設定情報をお控えください。
- (3) BIOS メニューの「Save & Exit」タブから「Restore Defaults」を選択し、BIOS の設定を初期化します。
- (4) BIOS メニューの「Save & Exit」タブから「Save Change and Reset」を選択して BIOS メニューを終了し、装置を再起動します。
- (5) 再度 BIOS メニューを起動し、控えた BIOS 設定情報をもとに、再設定してください。
「Save & Exit」タブから「Save Change and Reset」を選択して BIOS メニューを終了し、装置を再起動します。

21. メモリ未搭載通知による起動不可事象について

BIOS 版数 1.14.0 未満をご使用の場合、装置の起動時に「No memory installed」が記録され起動に失敗する場合があります。

本現象の発生回避のため、BIOS 版数 1.14.0 以降を適用してください。

— 以上 —